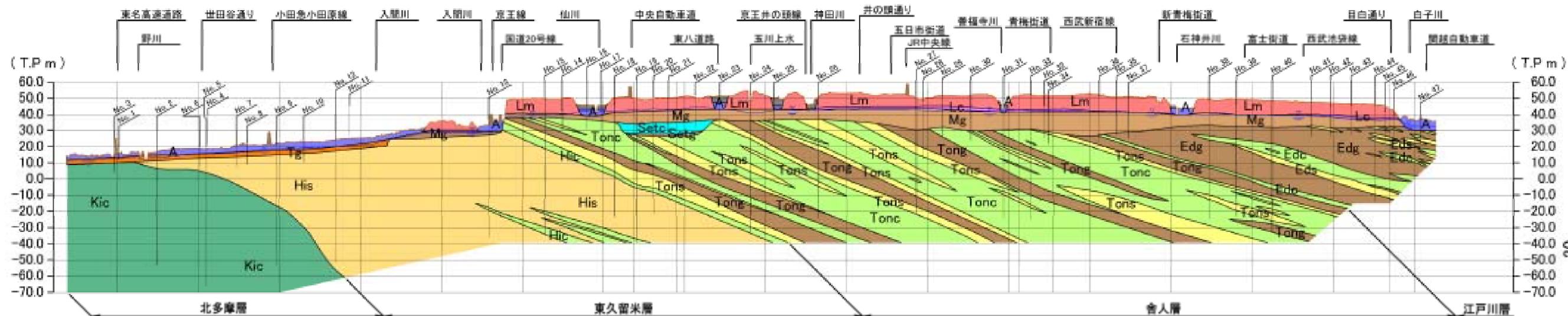


地質調査

地質調査は、地層の分布状況や、硬さ、水の通しやすさを確認するために実施しました。
 事業予定区域とその周辺において、60m以上の深い層まで確認する深層ボーリングを18箇所、5～30m程度の浅い層を確認する浅層ボーリングを46箇所実施して、地盤中から試料土を採取して地層の分布状況を確認するとともに、硬さや水の通しやすさを調査しました。



地質縦断面図

-) 地質縦断面図は、縦：横 = 20：1の割合で表現しています。
-) 地質縦断面図は、事業区域の中心に沿った断面を表現しています。
-) 標高は東京湾平均海面を基にした表示 (T.P.+m) を用いています。

地層の構成

東名道から京王線にかけての野川沿いの低地部には、軟らかい沖積層 (A層) の粘性土、腐植土が存在しています。その下には、礫を多く含み、透水性の高い (水を通しやすい) 立川礫層 (Tg層) が分布しています。

京王線からの関越道にかけての台地部には、地表部に関東ローム層 (Lm層) やローム質粘土層 (Lc層) が存在し、その下には礫を多く含み、透水性の高い武蔵野礫層 (Mg層) が分布しています。

中央道から東八道路の約1kmの区間には、武蔵野礫層の下に粘土分が多く細粒な世田谷層 (Setc層) が分布しています。

立川礫層や武蔵野礫層の下には、非常に硬い上総層群 (北多摩層、東久留米層、舎人層、江戸川層) が分布しています。上総層群は、傾斜約1度で北に向かって緩く傾いています。地質縦断面図では傾きが大きく見えますが、これは縦を20倍強調しているためで、実際はほとんど水平に近い傾きです。

地層の特徴

- 関東ローム層 (Lm層)、ローム質粘土層 (Lc層)
 関東ローム層は、軟質な沖積粘性土層に比べると硬く、火山灰質で透水性が高い地層です。ローム質粘土層は、やや軟らかく、不透水層 (水を通さない地層) です。
- 世田谷層 (Setc層)
 粘土分が多く細粒で、水分を非常に多く含む粘性土です。関東ローム層よりもやや硬い地層です。
- 立川礫層 (Tg層)、武蔵野礫層 (Mg層)
 直径0.5～3cmの礫を主体として、中程度～粗い砂を含んだ締まった砂礫層です。粘土分をあまり含まないので、透水性の高い砂礫層です。
- 上総層群
 - <北多摩層> 非常に硬い状態の粘性土層です。粘土分が多く、不透水層です。
 - <東久留米層> 非常に締まった砂層です。野川沿いでは、細かい砂が主体で粘土分を多く含む透水性が低い (水を通しにくい) 状態ですが、中央道付近では、粒径が粗くなり、透水性が高くなります。
 - <舎人層> 非常に締まった砂礫、砂、粘性土が重なるように交互に分布する地層です。砂礫層は粘土分が少なく透水性が高く、粘性土層は不透水層です。
 - <江戸川層> 非常に締まった砂礫層を主体とした地層です。砂礫層は、直径0.5～3cmの礫が主体で、透水性の高い地層です。

凡例

地質時代	地層	記号	層相	
更新世	礫土、埋土	B	礫混じり土主体	
	沖積層	A	軟質な粘性土、腐植土	
第四紀 更新世	関東ローム層	Lm	火山灰質粘性土	
	ローム質粘土層	Lc	粘土化した関東ローム層	
	立川礫層	Tg	砂礫	
	武蔵野礫層	Mg	砂礫	
	世田谷層	Setc	細粒分の多い粘性土	
		Setg	砂礫	
	上総層群	江戸川層	Edc	粘性土
			Eds	砂
			Edg	砂礫
		舎人層	Tonc	粘性土
	Tons	砂		
	Tong	砂礫		
東久留米層		Hic	粘性土	
		His	砂	
	北多摩層	Kic	粘性土	